

中国雲南地方の茶業について

池田 奈実子

(農林水産省野菜・茶業試験場)

Tea in Yunnan Province of China

Namiko IKEDA

(National Research Institute of Vegetables, Ornamental Plants and Tea)

チャの原産地は、中国南西部の雲南省を中心とする地域であると言われている⁴⁾。他のカメリア属植物もこの付近に分布しており¹⁾、チャの起源が雲南省付近であることは間違いないと考えられる。しかし、雲南省は日本とほぼ同じ面積を有する広大な地域であり、雲南省のどこであるかは特定されておらず、西双版纳²⁾、雲貴高原⁵⁾などいくつかの説がある。その地域の一つである西双版纳易部周辺を1998年1月12日から19日まで訪問したので、この地域のチャの栽培、製茶、喫茶や利用法について報告する(第1図)。

旅 程

同行者 松下 智 (団長), 伊藤一義, 小泊重洋, 堀田信幸, 早川史子, 金丸瑠美, 榊原秋子,
金 天浩

1月12日 関西空港→広州

13日 広州→昆明→景洪

14日 景洪→勐崙 熱帯植物園見学

15日 易部 午前役所と打ち合わせ, 午後元宝茶製法見学

16日 易部→麻黒→曼酒

17日 基諾族部落 涼拌茶葉見学

18日 景洪→昆明→広州

19日 広州→関西空港

チャの栽培

熱帯植物園内には、チャの試験圃場があり、ゴムなどを日陰樹として使う試験を行っていた。日陰の程度には何段階かあったが、日陰樹が密生していて、1日中陰のところでは、樹が弱々しく、新芽がわずかしか伸びていなかった。日陰樹がまばらで、日当たりのいいところでは、樹の生育もよく、新芽も伸びており、熱帯でも極端な日陰は、チャの生育に悪影響を与えると考えられた。

チャは、スリランカ、インドネシアのような赤道直下では休眠はなく、日本でも、沖縄付近では、品種によっては完全に休眠しない。熱帯植物園のチャも山間部のチャも新芽の伸びは止まっておらず、休眠状態ではなかった。1月は最も昼が短く、気温が低い時期であるので、この地域ではチャは休眠しないと考えられた。

勳崙から易部へ車で行く途中には、大規模な近代的な茶園が見られた。易部から麻黒の間には、民家の裏山などに半野生、半栽培の茶畑が見られた。麻黒から曼酒までは、かなり険しい山道を徒歩で2時間ほど登ったが、道ばたに野生化したチャが見られた。曼酒は歴史上記載された六大茶山の一つであるが、現在山頂は寺や屋敷の跡は見られたが廃墟で、周辺にはチャは見られなかった。

チャは緑茶用の中国種 (*Camellia sinensis* var. *sinensis*) とアッサム種 (*C. sinensis* var. *assamica*) の二つの変種に大別される。訪問中、中国種をみかけたのは、易部にある役所の裏庭の試験栽培圃場だけであった。他は、熱帯植物園のチャも、民家の裏山や山間部のチャもすべて、葉の形態、雌ずいの分岐点からアッサム種であると推察された(第2図)³⁾。基諾族部落の裏山のチャでは、東南アジアの茶生産国で最も重要なチャ病害であるもち病の発生が見られた(第3図)。

元宝茶の製法

易部で磚茶(団茶)の一種である元宝茶の作り方について見学した。原料は、チャの生葉でなく、製茶した葉(茶)を用いる。茶を固めることによって、酸化による劣化を防ぐとともに、容積を少なくして、保存、運搬をしやすくした。製法は以下の通りである。

- 1) 金属製の容器に釜炒り製緑茶350gを入れてかまどで数分間蒸す。
- 2) 容器を逆さまにして、茶を布の袋に開ける。
- 3) 袋の口をきつくしばり、しばり口を真ん中へ押し込む(第4図)。
- 4) 重石をのせて、さらに人が重石の上へ乗って、5分間加重して茶を押し固める。

基諾部落の茶の料理方法

基諾(ジノー)族部落にて涼拌茶葉と呼ばれる茶の料理方法について見学した。原料は、チャの新芽、イエンスイと呼ばれる草、シュウサイ(臭菜)として木の芽を用いる(第5図)。シュウサイは、臭いがきついで、バナナの葉につつんで焼いた後、切ってゆがいておく。次に、シュウサイを肉と一緒に炒める。最後にイエンスイと茶の新芽を入れる。トウガラシと塩を加えて味付けすることもある。

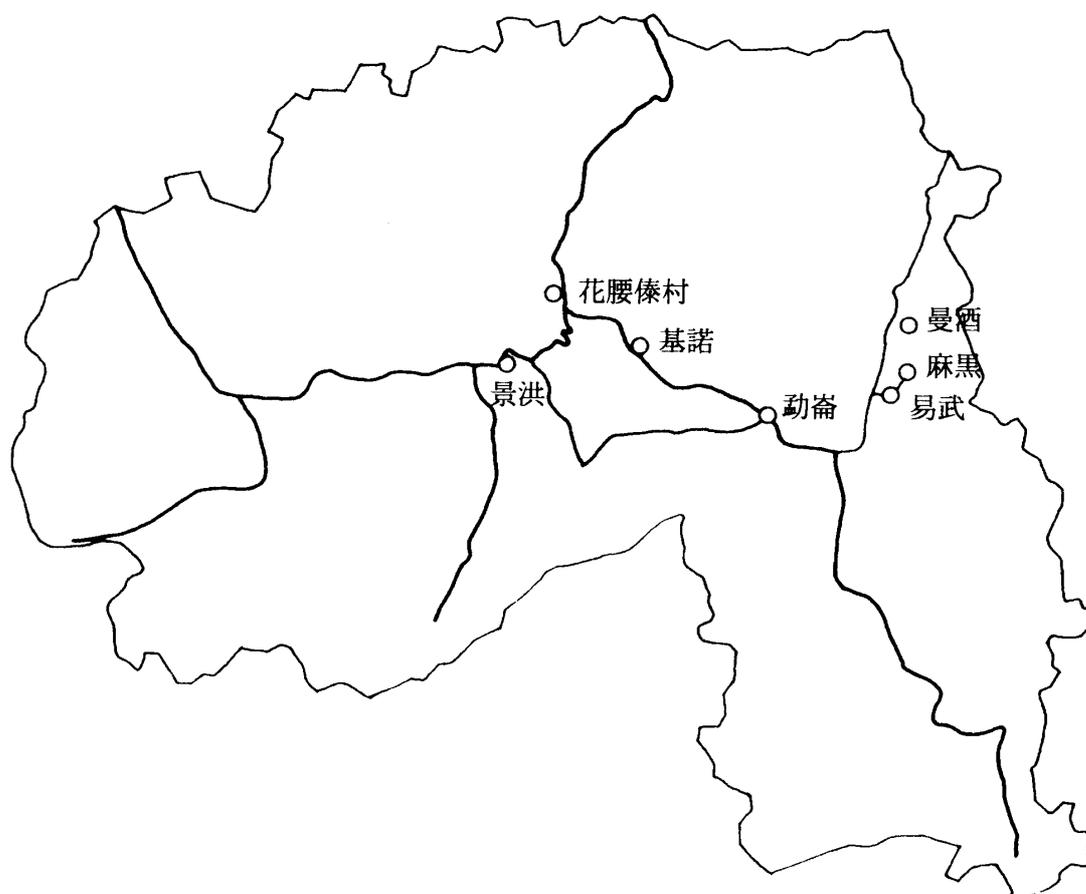
今回は日程に余裕がなく、私達が回ることができたのは限られた地域であるが、チャの栽培や加工について新たな事実が明らかになった。しかし、チャの植物としての起源や、飲用の歴史を解明するためには、まだ多くの調査を積み重ねる必要がある。けれども、チャが栽培されている山岳地域は、部落ごとに民族が異なり、言語も漢民族とは異なり、解読が難しい場合や、極端な場合は、文字を持たない民族もある。したがって、調査には、中国側との協力、特に民族学の研究者との協力が不可欠であると考えられた。

謝 辞

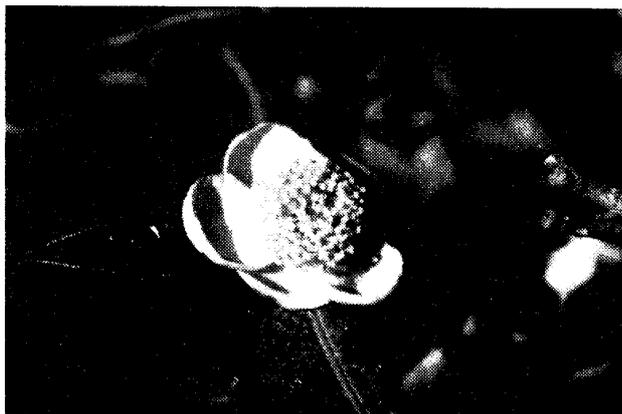
この訪問を企画された松下 智氏と他の同行者の方々に深謝する。

引用文献

1. Chang Hung-ta 1981. Thea-A section of beveragial tea-trees of the genus Camellia. Acta Scientiarum Naturalium Universitatis Sunyatseni 1:87-99 (in Chinese).
2. 陳 椽・陳 震古 1978. 中国雲南是茶樹原產地. 中国農学会大原論文 1-14 (in Chinese).
3. 鳥屋尾忠之 1994. 栽培種の種内分類. 岩浅潔編, 茶の栽培と利用加工. 養賢堂, 東京. 8-11.
4. Ukerss, W. H. 1935. Moot question of tea's origin. All about Tea. The Tea and Coffee Trade Journal Company, New York. 5-6.
5. Zhuang Wan-fang 1981. Where is the origin of tea in China. Journal of Zhejiang Agricultural University 7(3):111-115 (in Chinese).



第1図 中国雲南省西双版纳地区



第2図 勗崙熱帯植物園内のチャの花



第3図 基諾部落裏山のチャに発生したもち病



第4図 元宝茶の製造



第5図 涼拌茶葉 左上 イエンスイ 右上シュウサイ 下 チャ